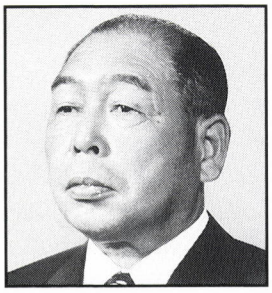
名誉会員追悼



故　名誉会員　藤本　一郎　君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元会長、川崎製鉄株式会社相談役藤本一郎殿のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和43年から45年までの２年間、本会会長を務められ、鉄鋼技術に関する深い造詣と、卓越した指導力をもって本会事業の企画運営にあたられました。特に、氏の尽力によって初めてわが国で開催された鉄鋼科学技術国際会議は、世界各国から千百余名が参加し、鉄鋼の精錬から加工、材料にいたる広範囲にわたって活発な討論が行われ、実り多い成果を挙げることができました。また、氏は、ソ連科学アカデミーとの第２回日ソ シンポジウム、国際鉄鋼協会技術委員会等の開催、ISO鉄鋼規格の調査研究推進を通じて鉄鋼業界の国際交流を活発に行われました。さらに、情報処理構想のための委員会を新設する等、数多くの立派な業績を残し、鉄鋼技術の興隆発展に尽くされました。

これらの事業推進にあたって、氏は、高邁なる識見と優れた洞察力と指導力を発揮され、その発展に多大の貢献をされておられます。

氏は、昭和７年東京帝国大学工学部冶金学科を卒業後、株式会社川崎造船所（現川崎重工業株式会社）に入社、昭和25年、川崎重工業の製鉄部門が分離独立した川崎製鉄株式会社に移られ、わが国臨海大型製鉄所の先駆けとして近代製鉄所のモデルとなった戦後日本初の銑鋼一貫製鉄所である千葉製鉄所の建設を推進されました。その後、水島製鉄所の建設では、建設委員長として陣頭指揮を執り、川崎製鉄の現在の事業基盤を築かれました。また、旺盛な探究心を発揮し、高炉の大型化推進、底吹転炉導入、連続鋳造設備採用などを先導的に実施する一方、フィリピン・シンター・コーポレーション、ツバロン製鉄所など海外事業も積極的に展開され、同社の海外戦略の布石を打たれました。

氏は、昭和41年に社長に就任され、「技術の川鉄」という企業イメージを定着させるとともに海外を含めた経営の多角化などを的確な洞察力に裏打ちされた信念をもって精力的に推進され、同社を一平炉メーカーから世界屈指の銑鋼一貫メーカーへと脱皮・雄飛せしめられました。

氏は、本会のみならず、鉄鋼界、産業界に亘る各種団体の要職を歴任し、わが国の経済、学術技術の発展に多大の貢献をされました。これらの一連のご業績に対して、本会から服部賞、渡辺義介賞、製鉄功労賞ならびに俵賞が贈られているほか、政府から勲一等瑞宝章、藍綬褒章が授与されております。

元会長の本会発展に尽くされました偉業を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成10年９月

社団法人日本鉄鋼協会　会長　　岸　輝雄